

平成 20 年度 NGO 専門調査員報告書

NGO 主導の日本国内における
国際支援の啓発及び人材育成に関する調査・研究

特定非営利活動法人 ADRA Japan

西川 啓子

目 次

1. 受入団体の概要および専門調査員の略歴
 - 1.1 受入団体の概要
 - 1.2 専門調査員の略歴

2. 調査・研究活動の内容と結果
 - 2.1 実施期間
 - 2.2 活動目的及び背景
 - 2.3 調査研究内容と結果
 - 2.4 分析
 - 2.5 提言

1. 受入団体概要および専門調査員略歴

1.1 受入団体の概要

ADRA (Adventist Development and Relief Agency) は、約 200 カ国・地域で活動している国際 NGO であり、本部を米国に持ち、約 120 カ国の支部により形成されている。ADRA Japan は、その日本支部である。ADRA の活動分野は、食糧確保、経済開発、保健衛生・医療、緊急援助、教育の 5 分野であり、ADRA Japan は、以下のミッションを持つ：

ADRA Japan はキリスト教精神を基盤とし、世界各地において今なお著しく損なわれている「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、国際協力をおこないます。その方法は、各国 ADRA 支部とパートナーシップを築きつつ、人種・宗教・政治の区別なく、全人的援助と自立を図る支援を継続していくことです。また、これらの活動を通し、国際社会に貢献できる知恵と技術の備わった人材の育成と、この活動を支える日本社会に国際支援への啓発を促していく使命も担っています。

2008 年は、スーダンにおける帰還民支援事業をはじめ、5 月に発生した二つの自然災害（ミャンマーのサイクロン、中国四川地震）の被災者への支援事業、ペルー沖地震被災者への支援、ベトナムにおける母子保健向上事業、並びにネパールにおける口唇口蓋裂治療のための医療チーム派遣、スポンサーシップ等の事業を行った。

1.2 専門調査員略歴

大学卒業後、国際渉外法律事務所に秘書として勤務。その後、外資系ソフトウェア会社で、製品のローカライズに携わった後、英国ロンドン大学教育研究所(Institute of Education, University of London)において、修士課程「教育、ジェンダー、国際開発」(MA in Education, Gender and International Development) を修了。

2. 調査・研究活動の内容と結果

2.1 実施期間

本調査・研究は、2008年5月1日から2009年3月31日の11か月間にわたって実施した。なお、2008年7月31日から8月10日にかけては、ベトナムにおいて海外調査を行った。

2.2 活動目的及び背景

ADRA Japan は、前述のとおり Mission Statement として①人間としての尊厳の回復と維持を実現するため、人種・宗教・政治の区別なく全人的援助と自立を図る支援をおこなう②国際社会に貢献できる人材育成③日本社会における国際支援への啓発の3つを挙げている。①に関しては、国際協力事業を行うことで、結果を出すことができていると思われるが、②および③の人材育成、啓発活動に関して、改善すべき必要を団体として認識している。

②に関して言えば、ADRA Japan は、人材育成活動として、国内での研修会の他に1988年から学生ボランティアの海外派遣を行ってきた（別紙1）。今までに延べ650人以上の学生ボランティアを海外に派遣しており、参加者のうち国際協力の道に進む者も少なくはなく、ADRA として重要視している事業の一つである。しかしながら、2007年3月のネパールでのボランティア派遣事業を最後に、近年応募者が減少し、派遣事業が中止になるケースがでてきている。国際開発に関心のある学生は増加していると考えられる中、これらの背景・原因等を調査分析する必要があると認識されている。なお、本報告書でいう人材育成活動は、スタッフへの育成活動は含まれていない。

また、③の啓発活動については、学校への出張講義・講演、また修学旅行生などの受け入れ等を行っているが、啓発活動の担当者がいるわけではないため、その依頼されたテーマに応じて、スタッフ各自の裁量で個々に対応しており、団体として本格的な啓発活動を行うための基盤となる開発教育用の教材が整備されていなかった。平成20年度、調査員は、本団体がどのような内容の開発教育教材を整備すべきかについて、本団体の職員を対象として啓発活動に関する簡単な調査を行い、団体としての方針を作成した。その結果を参考にし、啓発用教材を作成するとともに、年間を通じて教育機関との新たな関係の構築に努め、実際に教育機関や関係者との関係を構築した。また、上記教材は、2009年1月に江戸川区立二之江小学校で使用し好評を得た。今後は、この開発教育教材の改良や他国版・他年齢への応用、さらに、教育関係者の国際理解教育（開発教育）に関するNGOとの連携に関する意識調査の実施などが必要とされている。

これらの背景を踏まえて、本調査報告書では、特に調査が必要とされていた②の人材育成活動としての海外ボランティア派遣事業に関して行った研究および調査に関して報告する。

2.3 調査・研究内容と結果

ADRA Japan における人材育成活動には、国内外におけるインターン業務を通じたものと、海外における学生ボランティア派遣事業を通じたものがある。昨年で 4 回目を迎えた三育学院短期大学（現在の名称は、三育学院大学。）の地域看護学実習は、ここ 4 年に渡り、ラオス、ベトナム等 ADRA Japan の事業地で行っており、参加人数も年々増加している。この他にも、2006 年には、国内で「国際協力入門」という国内研修を実施している。

このように、ADRA Japan は、国内外における様々な研修やプログラムを通じて、国際協力に従事する人材の育成に貢献している。しかしながら、その中で「学生ボランティア派遣」については、1988 年より行っている事業であるが、2007 年以降数回にわたり、参加者を募ったが最少催行人数を満たせず実施できなくなってきたり、団体からこの原因について調査の要望があった。

様々な原因が考えられるが、ADRA Japan のスタッフとのインタビューでは、以下のような意見が寄せられた。

インターネットの普及によりバーチャルで体験したつもりになっている学生が多いのではないかと。

ADRA Japan が海外ボランティア派遣事業を始めた当初は少なかったが、他の多くの NGO が同様な事業(スタディー・ツアー)を始めた。

潜在的に行きたいと考えている学生は、多いと思う。広報が足りないのではないかと。

(以前に比べて) 個人旅行等が簡単になり一人で行く人が増えた。

調査員はこれらの意見を考慮しつつ状況を分析し、原因は、派遣事業の内容が、学生のニーズと乖離しているためではないかと考えた。そして、「学生たちが企画を行い、自分たちのニーズを満たした企画であれば、応募者は増加する」という仮説を基に、それを検証するべく以下のような調査を行った。

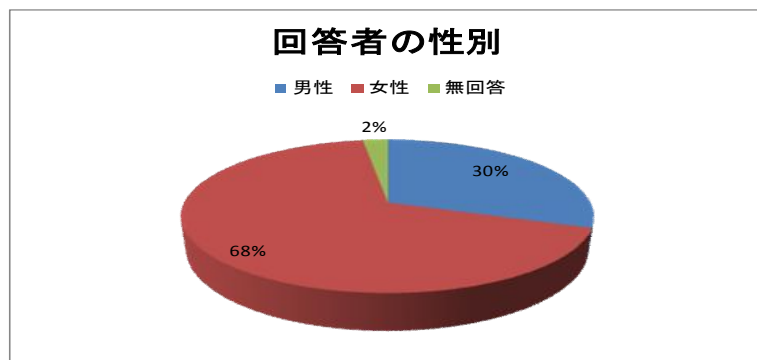
(1) 都内の 2 大学の学生への海外でのボランティア活動に関する意識調査

国際支援・協力活動、NGO の活動、海外でのボランティア等に関する関心の有無やニーズ等を調査するために、別紙 2 の調査票を用いた調査を行った。実施前に実際にボランティア事業に関わるスタッフ等に回覧し、依頼のあった質問等も盛り込んだ。

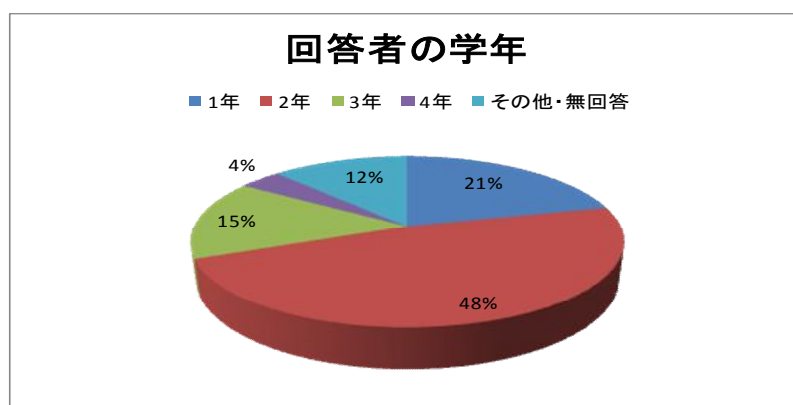
以下、調査結果の詳細は、別紙 2 にも記載するが、ここでは、結果と調査の限界について言及したい。また、この結果に関する分析は、次節 2.4 で行う。

(i) 回答者について

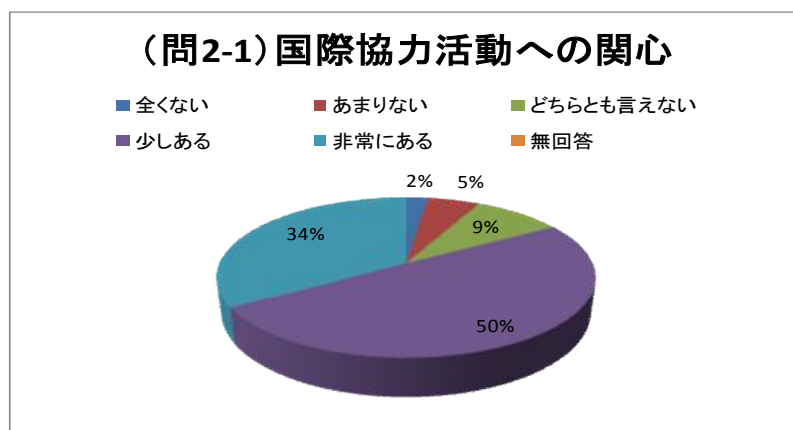
この調査は、東京都内の2つの大学（M大学およびI大学）で、学年、学部/学科等は特に選別せずに行った。全回答者133名（I大学82名、M大学51名）のうち、男女の比率は以下のとおりであった。



回答者のうち7割近くが女性である理由は、I大学の女性比率が高いことが影響しているものと考えられる。また、以下の図でも分かるとおり、回答者の半数近くは、2年生である。



(ii) 国際協力活動への関心



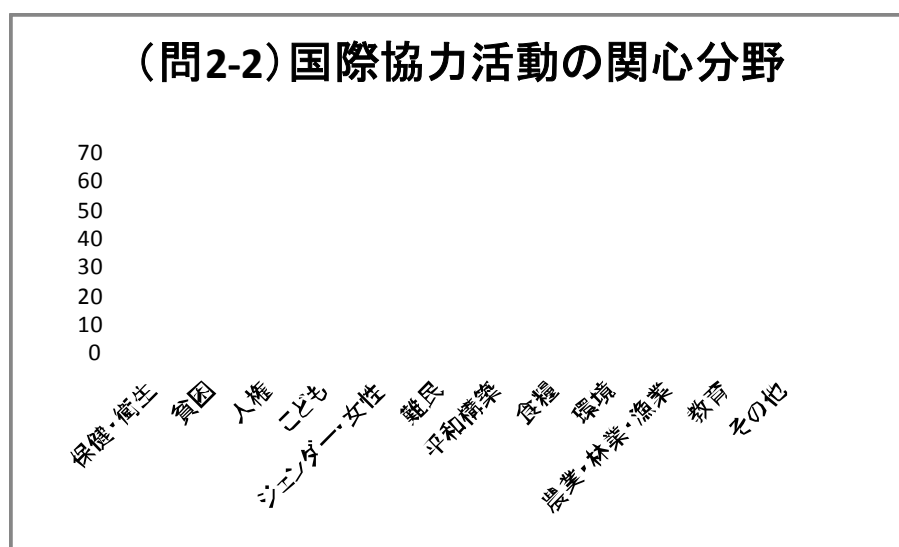
ここでは、発展途上国に支援する国際協力活動への関心を聞いた。上記の図からも分か

るとおり、回答者の国際協力活動への関心は非常に高かった。「非常に関心がある」層の34%と、「少しある」層50%を加えると、8割を超えた。この調査は、学年、学部/学科等は特に選別せずに行ったが、配布、回収の都合により、「国際関係」に関連する授業の履修者が多数を含まれていた。これは、国際関連の授業を担当する教授が調査に協力的であったこと、（全てではないが）配布・回収をADRA Japanのインターンに依頼し彼らが履修しているクラスを中心に配布した結果、「国際関連」のクラスが多く含まれた、寮等不特定多数を対象にしたものは非常に回収率が悪かったことなどによる。また、二つの大学のうちの一つI大学は、卒業生の多くが国際機関に就職するなど、大学全体として国際問題への関心が高い大学であったことも、断っておきたい。

故に、データの片寄は否めず、国際協力活動への高い関心は予想された結果であった。

(iii) 関心のある分野

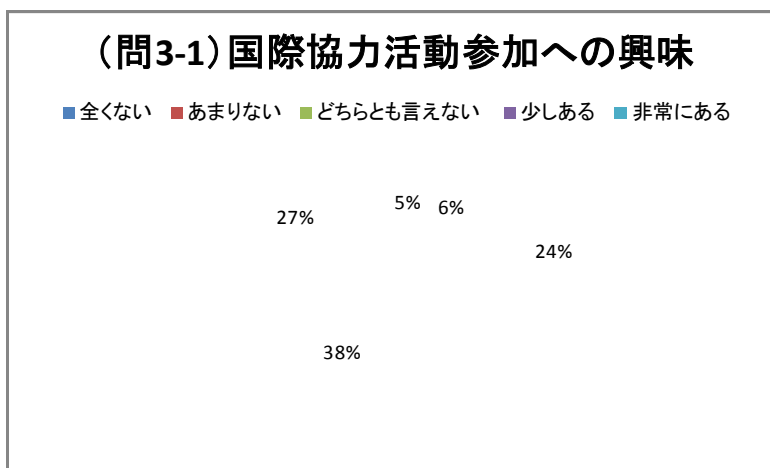
ここでは、上記の質問で、国際協力活動への関心が「少しある」、「非常にある」と回答した層に、関心のある分野を尋ねた。



複数回答が可能であったため、ほとんど全ての分野にマークする者もいたが、貧困分野への関心が最も高く、次いで、子ども、教育、平和、環境分野への関心が続いた。保健・衛生、農業・林業・漁業等の分野は、他分野に比べて低い数値となった。その他には、紛争解決、福祉等の分野を挙げる者もいた。

(iv) 国際協力活動参加への関心

次に、現在または将来的な国際協力活動への参加の関心の度合いを問うたところ、以下のような結果となった。



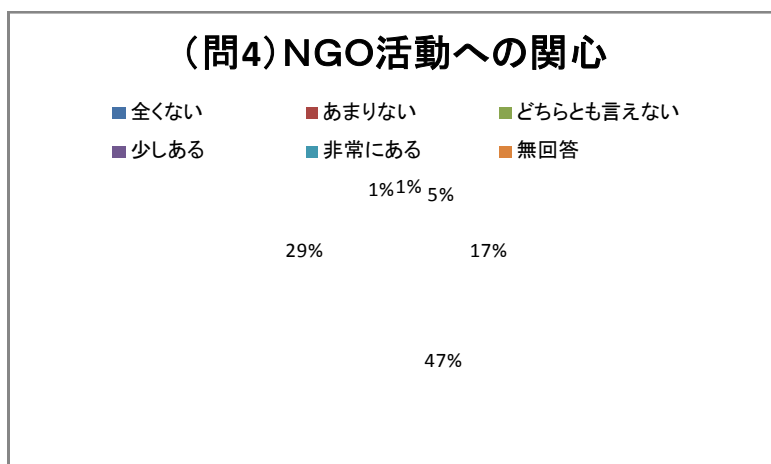
ここでも、関心が「全くない」「あまりない」層が合わせて 10% 少しいであるのに対して、関心がある層は、「非常にある」27%、「少しある」38%と 6 割以上を占めた。また、「どちらともいえない」層も増加している。

(問 3-2) では、「非常に・少し関心がある」と答えた層に対して、どのような形で関わりたいか、また、現在すでに活動している者は、どのような活動をしているかを尋ねた。

ここで最も多く目立ったのは、何も記入していない層であった。この他、将来、国際機関、外務省、JICA、NGO、企業（CSR を通じて）で働く、青年海外協力隊、ジャーナリストとして関わりたいという者もいた。現在関われる活動として、ボランティアや、ボランティア活動を通じて単位を取得することが可能な I 大学のプログラムを利用した活動などを挙げる者もいた。また、直接、現地にいかななくても、日本でできる支援を行いたい、問題意識をもって暮らす、募金等を行う、環境問題に関心があるので植林、環境保護を行いたい等の回答もあった。一方、現在、実際に NGO で活動している者も若干名いた。

(v) NGO の活動への関心

問 4 では、国際支援を行う NGO の活動への関心を 5 段階で答えてもらった。

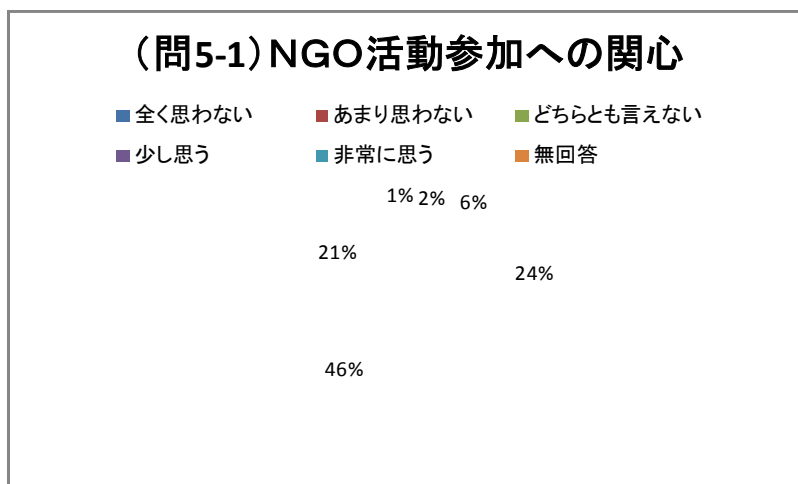


上記の図のとおり、NGO の活動に「非常に関心がある」層が、ほぼ 3 割 (29%)、「少しあ

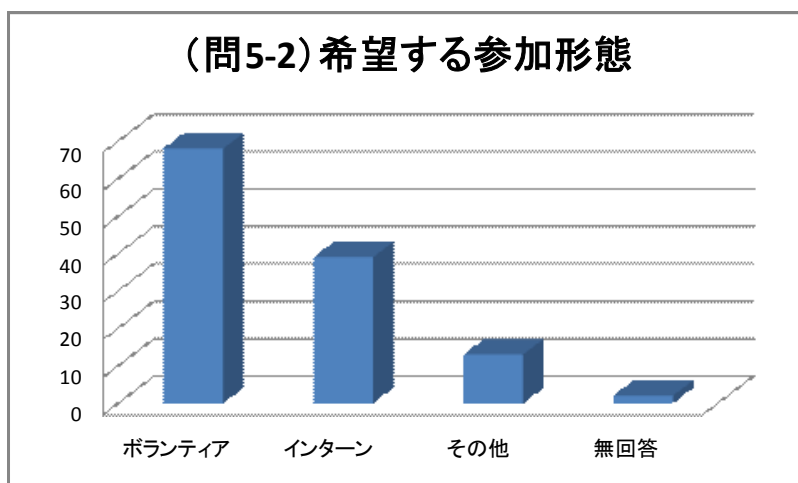
る」層が 5 割（47%）近かった。一方、関心が「全くない」層は、1%、あまりない層も 5%と、少なかった。

(vi) NGO 活動参加への関心

(問 5-1) では、NGO 活動に実際に参加したいかどうかを尋ねたところ、以下のように、問 4 と非常に似た傾向が見られた。



また、(問 5-2) は、(問 5-1) で、NGO の活動に参加したいと「非常に思う」、「少し思う」と答えた層に対して、どのような形態で NGO の活動に参加したいかを尋ねた。



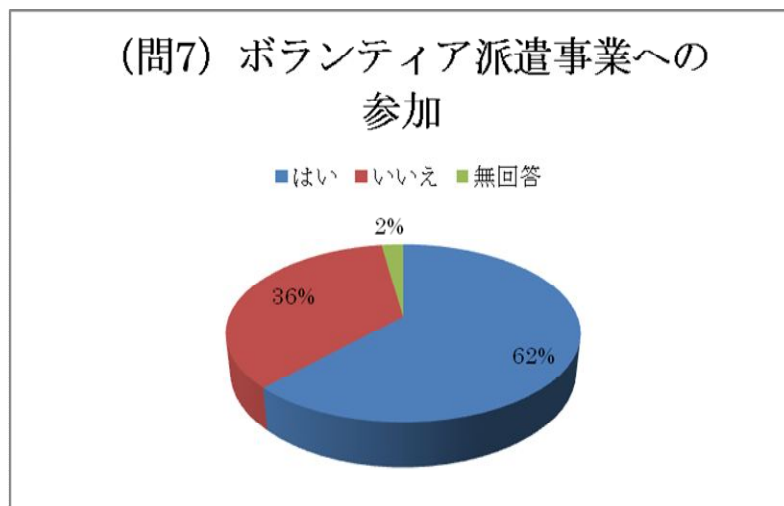
選択肢として、ボランティア、インターンに加えて、その他（回答者が記入）、現在している活動を記入する欄があったが、実際に記入があったのは、「その他」として、将来就いた仕事との関連で必要となった場合に活動したい、というものと、現在 NGO で実際に行っている活動について記述したものが 1 名であった（この回答も「その他」として数えた）。

大学別の傾向としては、M 大学の学生の回答では、「インターン」に比べて「ボランティア」としての活動を希望するものが多かったのに対して、I 大学では、「インターン」の方

が多い傾向が見られた。

(vii) ボランティア派遣プログラムへの参加

(問 7)では、「NGO が企画するボランティア派遣プログラムに参加したいと思うか」を、「はい」、「いいえ」の二者択一で選択してもらったところ、以下のような結果が得られた。



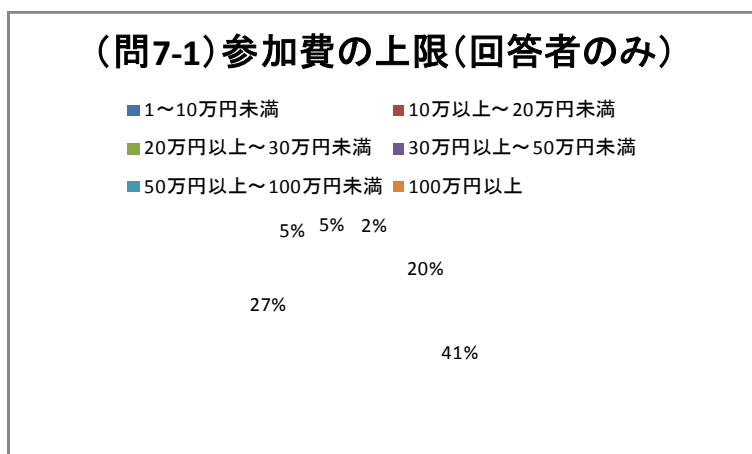
続いて、「はい」を選んだ回答者には、ボランティアで行きたい国・地域、行いたい活動について尋ねた。その結果、行きたい国・地域は、アジア（中でも東南アジア）地域が最も回答者が多く、かなり差はあるものの次いで、アフリカ、中東、中南米、東ヨーロッパ、と続いた。具体的な国としては、アジアの国々が多いものの、どこかの国が突出して多いということはなく、ベトナム、インド、ネパール、マレーシア、インドネシア、タイ、ミャンマー、カンボジア、ブータン、チベット、ラオス、モンゴル、中国、韓国、ベナン、イラク、ロシア、スーダン、シエラレオネ、コロンビア等が挙げられていた。行いたい活動としては、教育活動が最も多かった。

具体的には、以下のとおり：

- ・教育（学校教育、科学リテラシーについてのインフラ整備、教育環境の整備、学校建設、日本語教師、情報整備とそれに関わる教育）
- ・子供（子どもの権利、孤児の支援）
- ・地元住民の自立を助ける活動
- ・人権
- ・生活環境の整備
- ・食糧支援
- ・人道支援、
- ・ジェンダー
- ・建設

- ・環境改善
- ・紛争後の地域の現状をみてる
- ・プロジェクトの立ち上げ・実施・評価
- ・現地の人と関わること
- ・機会があればいろんなことに挑戦してみたい
- ・美術を通じた文化の見直し
- ・きつすぎないなら何でも、現状をきちんと把握できるなら何でも。

このほか、無回答も多く、「よくわからない」、「特に希望はない」等の回答も多くみられた。渡航費、現地滞在費、活動費を含む参加費の予算について尋ねた問いについては、以下のような結果となった。無回答者が31名いたが、これは図には加算していない。10万円以上～20万円未満が41%と最も多く、次いで1万円～10万円未満の20%という結果となった。



次に、問7(1)で「いいえ」を選んだ回答者に対して、その理由、どのような内容・企画・条件であれば参加したいかを尋ねたところ、先ず、参加したくない理由としては、金銭的理由、時間的制約を挙げるものが非常に多く、次に、安全面を心配する声も多かった。それに続いて、以下のような回答があった：

- ・知識面において不十分
- ・企画内容が分からない
- ・今は自分のしている事で手いっぱい
- ・現地に行くことだけが世界の困っている人々を助けることではないと思う
- ・自分のことを考えてからボランティアをすべき
- ・参加費というものに賛成できない(それだけのお金を払えるなら、プロに渡して、プロに任せた方が、学生が遊び半分で作るより遥かに意味がある)
- ・ボランティアという言葉が自分には重く感じる

- ・草の根活動的なものにあまり興味がない
- ・途上国にとって何が必用なのか把握できていない
- ・現地の生活環境に順応できるか分からない
- ・情報があまりないまま海外に派遣されるのはちょっと・・・
- ・いつ送られる（派遣される）か分からない
- ・自分の都合で行きたい
- ・海外に行ったことがないから
- ・日本で行いたい
- ・語学面が心配
- ・特に興味がない
- ・今は別にやりたいことがある

どのような内容・企画・条件であれば参加したいかについては、当然ながら、上記に挙げられた理由と重複、関連のあるものも多かった。回答は以下のとおり：

- ・あまりお金がかからなければ参加したい
- ・もし低価格や何かしらの措置を行ってもらえるなら是非参加したい
- ・長期休暇中で少なくとも参加費がかからない
- ・知識を得てから検討したい
- ・「上から目線」ではない
- ・（参加）人数が多い
- ・せっかく行くのなら現地の人との交流を盛んにしたい
- ・とりあえず生きていけるところ
- ・現地の子どもたちと一緒に絵を描く企画ならうれしい
- ・気軽に参加できる身近なボランティア
- ・未経験の人の参加も多い
- ・募金という形で参加したい
- ・関心がないため、どのような形態であっても参加したくない

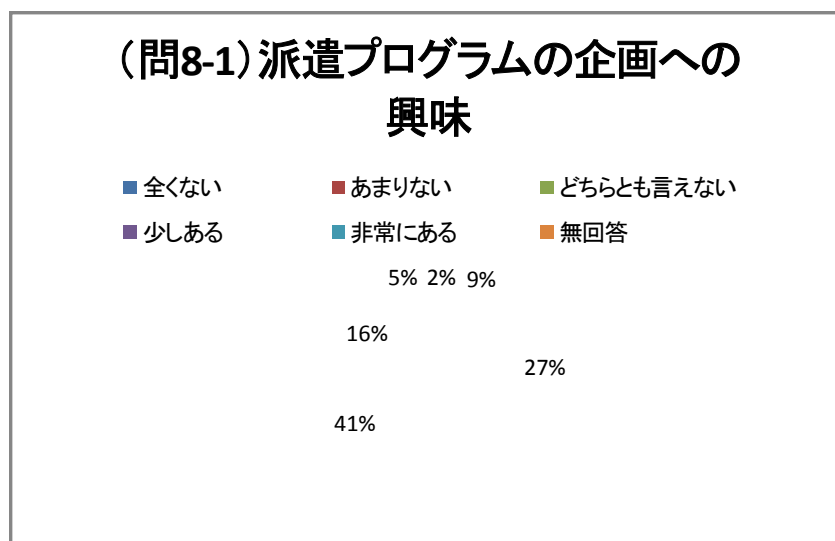
また、無回答も多かった。

(viii) ボランティア派遣事業の企画への興味

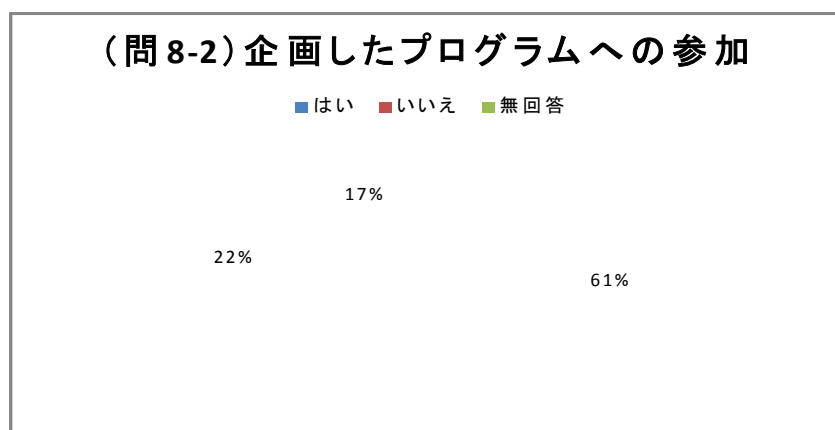
問 8-1 では、NGO とボランティア派遣事業の企画を行うことに興味があるかを、問 7 で、ボランティア派遣事業へ参加したいかという質問に対して、「いいえ」を選んだ回答者を含んだ全ての回答者に対して聞いた。また、問 8-2 では、自分の希望が反映される企画で

あったら関心があるか尋ね、以下の図のような結果が得られた。

まず、ボランティア派遣事業への企画については、過半数が関心を示した。



次に、その企画したボランティア・プログラムに参加したいかを尋ねたところ、同じく、過半数の回答者が、参加したい意思を示した。



問7で、「いいえ」を選んだ理由が、「関心がない」等の回答者は、ここでも、企画への「関心が全く・あまりない」を選択しており、企画したプログラムへの参加も「いいえ」を選択しているが、問7で、「いいえ」を選んだ回答者の中にも（理由無記入）、企画には、「関心が非常に・少しある」、その企画したプログラムに「参加したい」と答えている者もいた。

(x) 「その他」

これは、アンケートの最後に、意見、希望等を自由に書く欄であったが、ここでは、以下のような意見が寄せられた：

- ・学生の中に NGO の活動や途上国でのボランティア・プログラムに参加してみたい
- ・ボランティア・プログラムの情報があったら教えてほしい
- ・外国へ行くとなると難しいが国内でできることがあればやりたい
- ・ボランティアに関してあまりいいイメージがない
- ・なぜ現地の人間でもできそうな作業をしにいくのかがよく分からない
- ・行きたい、参加してみたいという気持ちはあっても、今の自分のことに精一杯で大抵あきらめている。
- ・インターンの機会があることは望ましいことであるが、費用がかかってくるため、行きたくても行けない人が多いのではないかと、
- ・インターン先を探している
- ・行った地域の言葉を勉強してからでないと行けないと自分は思うが、行く地域が決まってからの勉強する時間はどれくらいあるのか。

その他、ボランティア・プログラムとは関係ない意見も寄せられたが、ここでは割愛する。また、この調査を行った後、(調査員のメールアドレスを記載していたため) インターンの希望を実際に伝えてきた者、メールマガジンを希望する者もいた。

2.4 分析

(i) 回答者の学年

回答者の半数近くが、現 2 年生 (新 3 年生) であったことに関しては、現在の日本の就職活動の状況を鑑みると、現 3 年生 (新 4 年生) は、来年度、就職活動と卒業論文執筆のためボランティアに関わる時間的余裕はあまりないと考えられる。実際に来年度、ボランティア派遣プログラムを企画した場合、参加することが見込めるのは、現 2 年生と現 1 年生であると予想されるため、このアンケート結果から、ターゲット層のニーズ・傾向の把握に役立つと考えられる。

(ii) 国際協力活動への関心・参加の関心

非常に関心が高かった理由には、データ配布・回収のプロセスで、国際関連のクラスを履修する回答者が多く含まれていたことも多分に関係しており、データの偏重は否めないが、上記(i)同様、この回答者層は、今後、プログラムを企画する際に、募集対象となる層であると言えよう。

また、6 割以上の回答者が将来的に国際協力活動に関わりたいという希望を持っているが、実際に活動している者は、極めて少ない。現在どのような形態に関わりたいかについても具体的に記入している回答者が極めて少ないことから、関心も将来的な希望や参加の意思もあるが、実際に何をすればよいか、今、何ができるのか、そして、何が、将来的に国際協力活動へ関わる仕事に繋がっていくのか等が、明確には分かっていない回答者も多いと

いえるのではないだろうか。

(iii) 国際協力活動の関心のある分野

上記の傾向は、(問 2-2) 国際協力活動の関心のある分野の選択結果にも反映されていた。分野を絞って、マークする者もいたが、多くの回答者は、関心のある分野が絞り切れず、非常に多くの分野にマークしていた。つまり、広く浅い関心を持っていることが考えられる。また、保健・衛生、農業・林業・漁業は、特に専門知識を要すると思われたのか、選択した者が少なかった。この点については、回答者の学部や専攻に大きく左右される点でもあろう。

この結果は、ボランティア派遣事業で扱う分野(テーマ)の参考にできると思うが、最も多くの回答者が選択していた「貧困」には、複合的な要因があり、様々な角度からのアプローチが可能であるため、たとえば、「子どもと貧困」、「教育と貧困」など、他の数値の高い分野とテーマを組み合わせることも可能である。また、「保健・衛生」についても、単独では関心が低いかも知れないが、背後にある母親の教育問題や、貧困、子どもの状況などを組み合わせることにより、関心度を上げていくことは可能であると考えられる。

(iv) NGO 活動および NGO 活動参加への関心

どちらに関しても非常に高い関心があり、また参加意欲も非常に高かった。回答者のうち、更に、「インターンをしたかった、ボランティアをしたかったが情報がなかった」という回答も見られたこと、また実際にしている活動への記述がほとんどなかったことから、意欲はあるものの、なかなか実際にできていないという状況や、どこに情報があるかも分からないという様子がみてとれた。

(vii) ボランティア派遣プログラムへの参加

これに関しても、6割以上が参加したいと回答しており、参加への意欲は非常に高かった。また、「いいえ」と回答した者の中にも、金銭的理由、時間的制約により参加したくてもできないという回答が非常に多かった。実際、参加したいという回答者にも、予算が10万円くらいと回答したものは非常に多い。この点に関しては、団体が助成金を申請するなどして、参加費をある程度の金額に抑えることができれば、金銭面の理由により、参加を見送っていた回答者達も参加が可能となるであろう。時間的制約については、前もって、学生たちのスケジュールを確認し計画を立てる、休み期間を利用することなどにより、調整は可能ではないだろうか。

次に、多かったのが、「安全面・治安が不安だから、企画内容が分からないから」等の回答であったが、この他にも、「情報不足」に起因すると思われる理由が非常に多くみうけられた。これらについては、「説明会」等を十分行い趣旨を説明することにより、解決できる面も多いと考えられる。これは、参加したいと考えている回答者に対しても同様であろう。

また、「現地の人ができる仕事をなぜボランティアが行うのか？」といったプログラムの意義について問う声もあった。これについても、「説明会」で十分説明した上で、実際に過去のプログラム参加者を同行し、「生の声」を聞いてもらう等の工夫が有効ではないだろうか。

大学別の回答を比較すると、M大学の回答には、語学への不安を挙げる声が多かったが、これは、I大学には見られなかった。I大学では、日本語を母国語としない教授による英語の授業も多く開講されているため、英語は、学内の公用語の1つである。これらのことから、派遣プログラムの対象となる学生によっては、「語学面」の配慮や説明を重文することも大事となってくるであろう。

次に、「参加したい」という意思を表明した回答者の「行きたい国・地域」は、非常に多岐に渡っていた。中には、次の質問である「行いたい活動」と関連付けられ、熟考された回答もなかったわけではないが、関連づけられていないものが多く、行きたい国を選んだ理由が明確でないものが多かった。次の「行いたい活動」についての傾向としては、前述の「関心のあるテーマ」と重複しており、「子ども」および「教育」関連の活動の希望が多かったが、どれも具体性が乏しかった。また、この「行いたい活動」欄では、非常に空欄が目立った。これらのことから、意欲は非常にあるが、具体的な国際支援・協力活動や被支援国に関する実際の知識や理解はそれに比例していないことが分かる。

(viii) ボランティア派遣事業の企画への興味

プログラムの企画に関しては、57%の回答者が関心を示していた。また、結果のところでも述べたが、NGOの企画した派遣プログラムには参加したくないが、自分が企画に参加したプログラムなら参加したいという回答者もいた。しかしながら、7-1の「NGOが企画したプロジェクトへの参加」との比較では、参加したい割合はほぼ不変であった。この結果を見る限り、自ら企画するというポイントはそれ程、興味を持つ層を広げることにはつながらないのではないか、という見方もできよう。ただし、回答者の多くは上述のように国際支援活動に関する具体的な情報や知識を持ち合わせておらず、自ら企画するという点について具体的なイメージが持てなかったという側面もあるのではないと思われる。

そこで、仮に、今後、ボランティア派遣事業の企画段階から彼らが参加するという新しい方策を試みた場合、彼らの自主性を最大限に重んじつつも、事前にワークショップや勉強会などを通じて、具体的な活動や被支援国に関する十分な情報を与え、理解を深めたいと、団体として彼らを導き、育成する役割が非常に重要となってくるであろう。

2.5 提言

本調査を行う際に、先に述べた仮説：「学生たちが企画を行い、自分たちのニーズを満たした企画であれば、参加者は増加するのではないか」を基に、今回の調査を行った。

しかし、分析(viii)でも述べたように、NGOが企画するボランティア派遣プログラム

への関心と学生たちが自ら企画するものへの関心の度合はほぼ同じであった。むしろ、今回の調査を通じて、明確となったのは、国際支援・協力活動への関心の高い学生は非常に多いが、具体的な問題意識を持っておらず、関心のある分野や問題も漠然としている点である。これは、回答者の7割近くが1、2年生であったこととも関連していると思われるが、彼ら（1、2年生）が、募集対象者であるという前提は変わらないとして、以下の提言を行いたい。

① ボランティア派遣プログラムまでのステップ作り

今回の調査により、学生たちは、ボランティア派遣プログラムに参加する土台となる十分な問題意識がまだ形成されていないことがわかった。そのため、問題意識を培う場としての、勉強会、ワークショップ等が前段階として必要であると考えられる。先ず、国際協力に関心を持つ学生を対象とした勉強会若しくはワークショップを開く。その際には、先ず、貧困、教育、子どもなど、本調査で関心の高かった分野から始め、その学生達に現地の現状やニーズ、何かしたいと感じさせるようなものとする。大学や教科書では学べないようなNGOならではのリアルな情報を学ぶ機会を提供するなどの工夫も必要であろう。

また、高い問題意識の形成は、一度の勉強会で得られるものではなく、この種の勉強会・ワークショップは、可能な頻度で継続的に開く必要があるだろう。これにより、ボランティア派遣プログラムに具体的な興味を持つ学生層を広げるだけでなく、常に次の世代を「啓発・育成」していくことができると思われる。

そして、具体的な問題意識がもてるようになったところで、より深い理解を得られる機会としての、ボランティア派遣プログラムを紹介する。紹介するのは、団体が企画したプログラムでもよいが、彼らの意欲や問題意識が深まっていれば、自分たちで企画し、自分たちが選んだテーマを掘り下げることが可能なボランティア派遣プログラムというのは、非常に魅力あるものと感じられるのではないだろうか。

② 広報活動の見直し

今回の調査により、学生は、国際支援やNGOの活動に関心はあると言ってはいるものの、情報を持っておらず、インターネット等を利用した情報収集も積極的に行っていないことが推察される。そのため、スタッフからの指摘のとおり、参加者を募る際の広報活動を見直すことが必要ではないだろうか。また、今回の調査により、ボランティア派遣事業に関して、学生が情報不足により誤解をしている、或いは不安を抱いていることも分かった。それらを解消するためにも、実施の際には、ボランティア派遣の意義等についても言及し十分な説明会を行う。また、その際に、今までのプログラムの参加者の「生の声」を聞く機会を設けることも肝要ではないだろうか。

③ 経済的負担の軽減

参加意欲はあるが、参加費の負担が理由となって躊躇している様子も見受けられた。団体が助成金等の獲得により、負担を軽減できるようにすることは、一助となると考えられる。しかし、学生が参加に不安を感じている点は必ずしも経済的負担だけではなく、上述したように言語や現地の治安に関する情報であったり、目的意識の欠如であったりする。上記①、②を実行することにより、プログラムそのものへの理解、問題意識や興味が深まれば、多少の経済的負担を伴ったとしても、参加したいという意欲は高まるのではないかと考えられる。

《謝辞》

外務省専門調査員の業務を遂行にあたり、以下の方々にご協力、ご支援頂きました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

- ・ 外務省国際協力局民間援助連携室の皆様
- ・ ADRA Japan の皆様そしてインターンの皆様
- ・ アンケートにご協力頂いたM大学、I大学の先生方と学生の皆様

(別紙1) ADRA Japan 過去のボランティア派遣事業

2008.08	ベトナム	保健衛生教育プロジェクト (専攻科派遣)
2007.08	ラオス	保健衛生教育プロジェクト (専攻科派遣)
2007.08	日本	能登半島地震 被災者支援
2007.03	ネパール	簡易保健所建設プロジェクト
2006.08	ベトナム	保健衛生教育プロジェクト (専攻科派遣)
2006.08	日本	国際協力入門～プロから学ぶ国際教育～
2006.03	ベトナム	学生ボランティア派遣事業 (保健衛生教育・社会調査)
2005.09	日本	コソボと日本の学校交流事業 (コソボ学生受入)
2005.07	ミャンマー	保健衛生教育プロジェクト (専攻科派遣)
2005.06	モンゴル	学生ボランティア派遣事業 (学校建設・交流会)
2005.03	ミャンマー	保健教育及び調査、ボランティア派遣事業
2004.12	日本	新潟中越地震 被災者支援
2004.09	モンゴル	学校建設プロジェクト
2003.09	日本	国際開発入門 ～プロから学ぶ国際協力～
2003.03	ネパール	ハンセン病患者住宅建設
2002.08	東ティモール	美化キャンペーン
2001.08	コソボ	学校建設・学生交流プロジェクト
1999.03	マレーシア	水道設備建設プロジェクト
1999.03	フィリピン	研修室建設プロジェクト
1998.08	モンゴル	ストローハウス建設プロジェクト
1998.03	ネパール	人形劇による衛生教育 (トイレ教育)
1998.03	マレーシア	小学校建設
1998.03	フィリピン	給水施設建設
1997.08	日本	高校生対象 国際協力研修会
1997.08	モンゴル	中学校補修工事プロジェクト
1997.03	ネパール	第4回人形劇公演 (目の衛生管理/保護)
1996.08	ベトナム	給水施設建設プロジェクト
1996.03	ネパール	小学校建設プロジェクト
1996.03	ネパール	第3回人形劇公演 (喫煙の害について)
1996.03	ネパール	看護学科生途上国実習 (家族計画について)
1995.08	日本	高校生対象 国際協力研修会

1995.08	ベトナム	麻薬中毒患者兼保健センター新設事業
1995.03	ネパール	第2回人形劇公演（歯を磨こう）
1995.03	ネパール	看護学科生途上国実習
1995.03	ネパール	ネパール国際青年協力隊プロジェクト
1995.01	日本	阪神大震災被害者救援プロジェクト
1994.09	ベトナム	麻薬中毒患者リハビリセンター建設
1994.03	ネパール	プライマリー・ヘルスセンター建設
1994.03	ネパール	第1回人形劇公演（食事の前には手を洗う）
1993.12	ベトナム	麻薬中毒患者リハビリセンター
1993.03	ネパール	診療所建設プロジェクト
1993.03	ネパール	児童健康調査／看護学科生途上国実習
1992.09	マーシャル連邦	マジュロ防波堤建設工事プロジェクト
1992.03	ネパール	ハンセン氏病患者住宅建設プロジェクト
1991.08	ミクロネシア	ヤップ島小学校貯水槽建築
1991.03	ネパール	ハンセン氏病患者住宅建設プロジェクト
1990.03	ネパール	シーア病院水道管取替工事／電圧気贈呈事業
1989.03	マレーシア	サバ給水施設／衛生施設拡充プロジェクト
1988.03	マレーシア	サラワク給水施設設置プロジェクト

(別紙 2) 調査票 (配布した調査票とカバーレター)

国際協力問題の啓発および人材育成支援に関するニーズ調査

【調査協力をお願い】

特定非営利活動法人 ADRA Japan で外務省 NGO 専門調査員をしている西川啓子と申します。研究テーマは、「NGO 主導の日本国内における国際支援の啓発および人材育成に関する調査・研究」です。

ADRA は、世界約 120 カ国に支部をもつ国際 NGO です。ADRA Japan は、現在、南部スーダン、中国、ラオス、ミャンマー、ネパール等で支援活動を行っています。また、ADRA Japan では、人材育成の一環として 20 年以上前から、井戸の掘削、学校建設、衛生教育、ハンセン病患者の住宅建設等に携わる「ボランティア派遣事業」をマレーシア、ネパール、ベトナム、モンゴル等で行ってきました。本調査は、この人材育成活動の改善を目的として行うものです。

ご回答いただいた調査内容は、調査員が外務省へ提出する調査・研究報告書の作成および当団体の今後の啓発・人材育成活動の改善に利用させていただくものであり、回答者が特定されることや、個々の回答内容が他の目的に利用されることは一切ございません。

つきましては、ご多忙のこととは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 ADRA Japan 支部長 石井 光男
外務省 NGO 専門調査員 西川 啓子

(ADRA Japan ホームページ: <http://www.adrajpn.org/>)

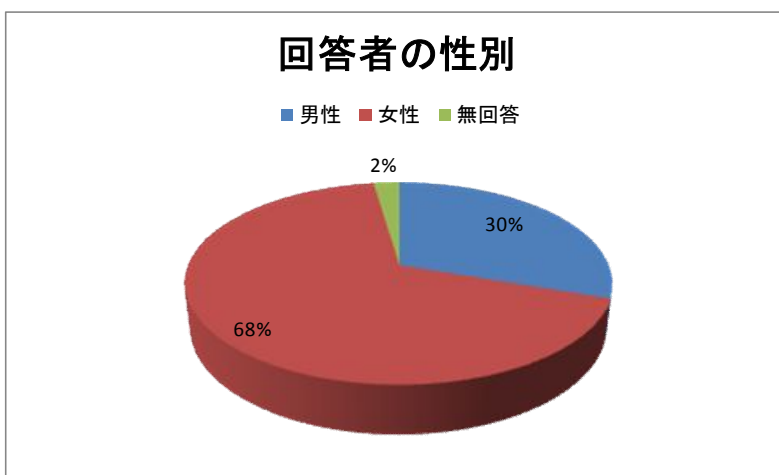
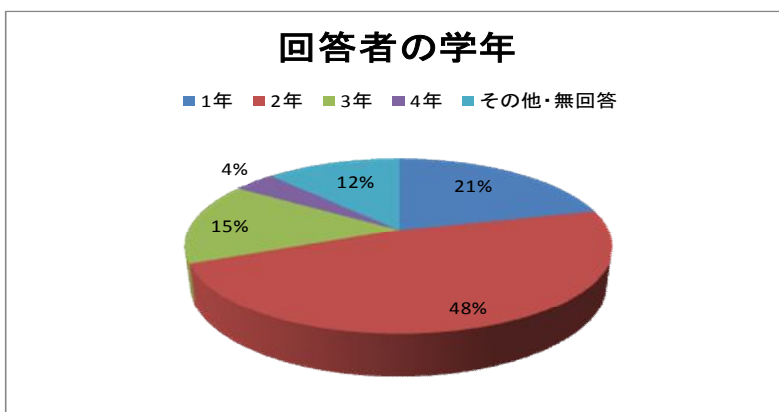
連絡先: 03-5410-0045

調査結果

調査を行ったM大学、I大学双方の結果を含む

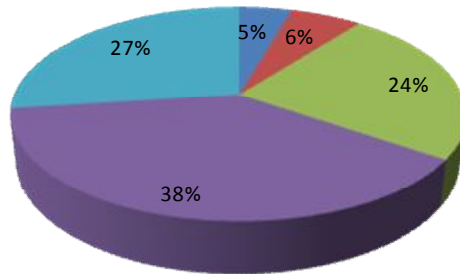
総人数： 133名

1. 大 学： _____ 学 部： _____
学 科： _____ 専 攻： _____
学 年： _____ 性 別： 女性 ・ 男性



(問3-1) 国際協力活動への興味

■ 全くない ■ あまりない ■ どちらとも言えない ■ 少しある ■ 非常にある



(2) 4または5を選んだ方、どのような形で関わりたいと思いますか？また現在すでに活動している方は、どのような活動をしていますか、差支えない範囲で具体的にお書きください。

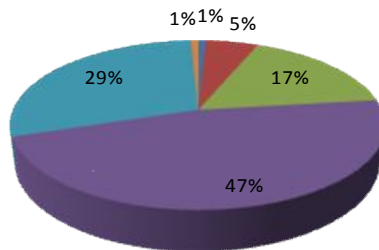
(省略)

4. 国際支援を行う NGO の活動に関心がありますか？

全くない あまりない どちらともいえない 少しある 非常にある
 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5

(問4) NGO活動への関心

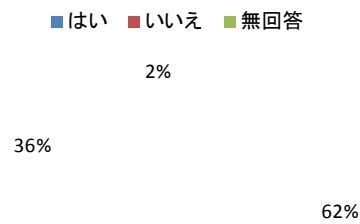
■ 全くない ■ あまりない ■ どちらとも言えない
 ■ 少しある ■ 非常にある ■ 無回答



5. (1) NGO の活動に参加してみたいと思いますか？

全く思わない あまり思わない どちらともいえない 少し思う 非常に思う
 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5

(問7) ボランティア派遣事業への参加



(1) 「はい」を選ばれた方、ボランティアで行きたい国、地域、行いたい活動はありますか？

i) 国、地域： 省略

ii) 活動： 省略

iii) 参加費（含：渡航費、現地滞在費、活動費）の上限は幾らですか？ _____ 円

(問7-1) 参加費の上限(回答者のみ)



(2) i) 「いいえ」を選ばれた方、参加したくない理由は何ですか？

(省略)

ii) どのような内容・企画・条件であれば、参加したいですか？

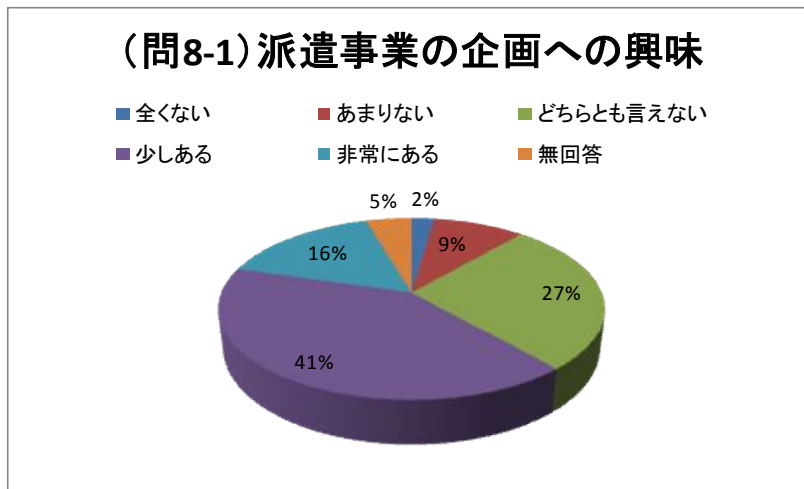
(省略)

8. (1) NGO とボランティア派遣事業の企画を行うことに興味はありますか？

(7で「いいえ」を選ばれた方も、ご自分の希望が反映される企画でしたら関心がありますか？)

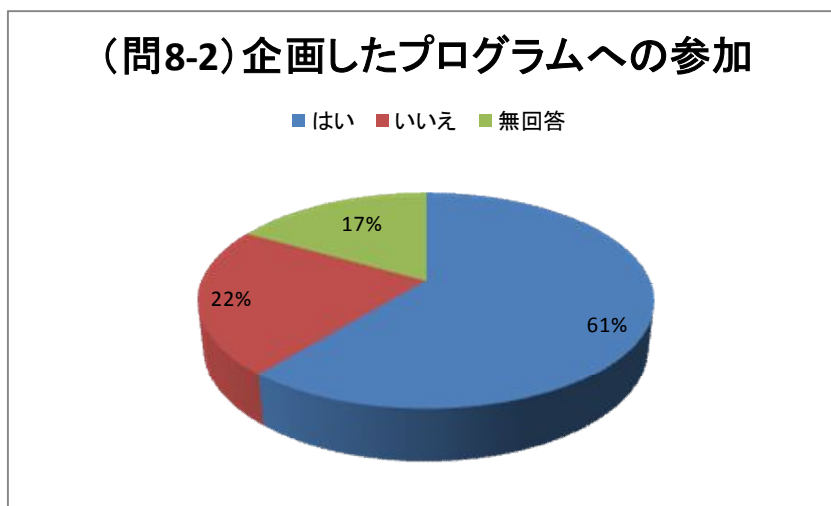
全くない あまりない どちらともいえない 少しある 非常にある

1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5



(2) 企画したボランティア・プログラムに参加したいですか？

はい いいえ



9. その他、ご意見、ご希望があればご自由にお書きください。

(省略)

ADRA Japan のメールマガジン配信ご希望の方は、メールアドレスをお書き下さい。

Mail Address: _____

ご協力ありがとうございました！